

2009 年第 167 号
(2009.12.14)

～作品の理解をさらに深めるワンポイントの解説を随所に加えた
全く新しい、近代文学の文庫シリーズ～

JTBパブリッシング

旅行ガイドブック制作のプロが発案！

名作の舞台を、その作品と旅行ガイドの両方向から翻訳する 『名作旅訳文庫』シリーズ8点を 12 月 15 日(火)同時発行！

■ 小説の展開に合わせて3種類の解説「旅訳」を随時挿入！

- ① 名作の舞台を追体験できるスポット情報
- ② 著者の人生や思想が分かるエピソード
- ③ 作品の背景や描かれた当時の世相にまつわる豆知識

■ 旅のお供に持って行ける！手軽な文庫サイズに手頃な価格に設定！

— 一般書店以外に一部駅売店やコンビニエンスストアでも販売。「旅のおともに名作を読む」、「名作をガイドに旅に出る」という新しい旅のスタイルを提案。

JTBグループの出版事業会社、株式会社JTBパブリッシング(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:竹浪 譲/以下JTBパブリッシング)は、近代文学作品の舞台や著者などにまつわる解説を随所に採り入れた『名作旅訳文庫』シリーズを 12 月 15 日(火)に発行する。

『坊っちゃん』、『蟹工船』、『風立ちぬ』といった近代文学の名作8点を選び、それぞれ全文を完全収録。小説の随所に「旅訳」として、作品の舞台を追体験できるスポット情報、著者の人生や思想が分かるエピソード、作品の背景や描かれた当時の世相にまつわる豆知識を囲み記事形式で挿入し、解説を加える。名場面に旅のイメージを重ねることで、小説の世界が追体験できるようにした。

るぶ情報版など日頃ガイドブックを制作する担当者が、文芸作品とその舞台に関する情報を一緒に読むことで、より深く旅を楽しんでもらいたいという発想で発刊するに至った。

また本書を、旅行のおともとして携帯してほしいという狙いから、一般書店の紀行文・文庫本コーナーに加え、旅行書コーナー、一部の駅売店やコンビニエンスストアでも販売するとともに、価格も手頃な 525 円(税込)に設定した。

初回発行部数は、各 12,000 部。

「団子屋は道後商店街に移転して今も営業中」(松山『坊っちゃん』夏目漱石 P49)など、作品に登場するスポット情報は、実際にその土地を訪ねて取材。現在の様子を文章や写真で伝えている。

また、「道後温泉本館は漱石着任前に完成」(同 P52)、「漱石は本当に泳いでいた」(同 P55)など、豆知識や著者のエピソードも随所に紹介している。

本書の概要は次の通り。

【書籍概略】『名作旅訳文庫』シリーズ

- 1 小樽・函館『蟹工船』 小林多喜二
- 2 青森『津軽』 太宰治
- 3 松戸・矢切『野菊の墓』『春の潮』 伊藤左千夫
- 4 東京下町『たけくらべ』 樋口一葉
- 5 軽井沢『風立ちぬ』 堀辰雄
- 6 大阪『夫婦善哉』『アド・バルーン』 織田作之助
- 7 尾道『放浪記』 林芙美子
- 8 松山『坊っちゃん』 夏目漱石

《判型・ページ数》 文庫判 144～256 ページ

《定 価》 各 525 円(税込)

《発売日》 2009 年 12 月 15 日(火)

《発行》 JTBパブリッシング



《主な「旅訳」の内容》

- 1 小樽・函館『蟹工船』 小林多喜二
p45「多喜二の第一希望は『中等教員』だった」
p49「多喜二が勤めた『拓銀』の建物は観光スポットに」
p83「公園通～水天宮は多喜二のデートコース」
p155「最期の『デスマスク』が小樽文学館に」
- 2 青森『津軽』 太宰治
p17 「青森市での下宿先は『豊田呉服店』」
p25 「『旧制弘前高校』跡に建つ記念碑」
p55 「蟹田のカニは『トゲクリガニ』」
p123 「ヒバ造りの『本覚寺』は昔のまま」
p142 「『本州の北端の宿』で太宰の宴席を再現」
p223 「太宰が連れて行かれた『雲祥寺』」
p247 「太宰と『たけ』の2人のブロンズ像」
- 5 軽井沢『風立ちぬ』 堀辰雄
p15 「節子と出会った『ホテル』はどこ？」
p91 「最初のタイトルは『婚約』だった『風立ちぬ』」
p129 「『水車の道』はどこにある？」
- 8 松山『坊っちゃん』 夏目漱石
p22 「松山の『三津浜港』に残る2つの記念碑」
p28 「『坊っちゃん』のモデルは2人いる」
p33 「『山城屋』のモデルは『城戸屋』」
p49 「団子屋は道後商店街に移転して今も営業中」
p124 「『山門の中の遊郭』は実在した」



《報道関係の皆様のお問合せ先》 JTB広報室 03-5796-5833
《一般のお客様のお問合せ先》 JTBパブリッシング 03-6888-7893